

第18回 近代文学館企画展 「江馬 修とその周辺」 平成25年2月16日(土)～17日(日) 高山市図書館「煥章館」

1-⑧	『山の民』第一部 -雪崩する國-[初版]	1947(昭和22)年	39-⑩	『氷の河』第一部・第二部[初版]	1955(昭和30)年
2-⑩	『山の民』第1部「雪崩する國」、第2部「梅村速水」、第3部「蜂起」[初版]	1949(昭和24)～50(昭和25)年	40-①	『氷河』第一部・第二部(中国版)	1958(昭和33)年
3-⑥	『山の民』草稿(最後の改作) 第1部「雪崩する國」、第2部「奔流」、第3部「途上」277頁から	1969(昭和44)年	41-⑩	『一作家の歩み』[初版]	1957(昭和32)年
4	『山の民』の改作	1969(昭和44)年	42-⑧	『一作家の歩み』	1989(平成1)年10月
5-①	『山民』中国語訳	1980(昭和55)年	43-⑤	江馬修ノート『いわゆる中ソ論争をめぐって』	1962(昭和37)～1965(昭和40)年
6-⑧	『山の民』上・下	1986(昭和61)年11月	44-⑤	江馬修ノート『芸術論をめぐって』	1966(昭和41)年
7-⑦	『蛇つかひ』[初版]	1914(大正3)年	45-④	創作集『延安賛歌』	1964(昭和39)年11月
8-⑦	『幼年・少年』トルストイ叢書(3)[初版]	1916(大正5)年	46-⑩	創作集『延安賛歌』[初版]	1964(昭和39)年
9-⑩	『幼年・少年』トルストイ・江馬修訳	1934(昭和9)年	47-⑤	天児直美宛 江馬修から	1967(昭和42)年
10-⑦	『創作』『脱却』	1916(大正5)年	48-⑤	中井毬栄・大岡昇平他から江馬修宛	1971(昭和46)年9月
11-⑦	『寂しき道』	1917(大正6)年	49-⑥	『悪しき隣人-お隣さんとお向かいさんと』	1972(昭和47)年
12-⑦	『寂しき道』	1917(大正6)年	50-⑤	『悪しき隣人』『お隣さんとお向かいさんと』	
13-⑦	『青年』トルストイ叢書(7)[初版]	1917(大正6)年	51-⑤	草稿断片	1972(昭和47)年6月
14-⑦	『愛と憎しみ』	1918(大正7)年	52-⑤	『恋しい恋しい黒髪のお妻よ』	1972(昭和47)年頃
15-⑦	日記一年 7月 江馬修執筆分	1920(大正9)年	53-⑤	物語詩(バラード)『白銀の糸』 一部口述	1972(昭和47)年頃
16-⑦	『晶玉集』『夜霧』江馬修作	1920(大正9)年	54-⑤	『森田草平との出会い』口述筆記	1973(昭和48)年1月
17-⑦	『赤い部屋』ストリンドベルヒ著、江馬修他訳	1920(大正9)年	55-⑥	さねとうけいしゅう から江馬修宛	1973(昭和48)年4月
18-⑦	『赤い部屋』(全) ストリンドベルヒ著、江馬修他訳	1921(大正10)年	56-⑥	さねとうけいしゅう から江馬修宛	
19-⑦	『訪る女』[初版]	1922(大正11)年	57-⑥	『玉川上水の茶番劇』草稿18枚中	1973(昭和48)年6月
20-⑦	批評便覧現代名著集『受難者』	1923(大正12)年	58-⑤	藤間生大から江馬修宛	1973(昭和48)年
21-⑩	『極光』上巻・下巻[初版]	1924(大正13)年	59-⑥	河原崎長十郎から江馬修宛	1973(昭和48)年
22-⑩	『羊の怒る時』[初版]	1925(大正14)年	60-⑤	江馬修自筆メモ	1973(昭和48)年12月、1974(昭和49)年10月
23-⑧	『羊の怒る時』	1989(平成1)年10月	61-⑤	『ある目覚』天児直美口述筆記	1973(昭和48)年春
24-⑩	『追放』[初版]	1926(大正15)年	62-⑧	『江馬修作品集3』飛騨百姓騒動記	1973(昭和48)年6月
25-②③	『阿片戦争』『築地小劇場風景』	1929(昭和4)年	63-⑧	『江馬修作品集3』受難者他	1973(昭和48)年10月
26-⑩	『受難者』他[初版]	1930(昭和5)年	64-⑤	武者小路実篤から江馬修宛	1974(昭和49)年
27-⑩	『受難者』	1938(昭和13)年	65-⑤	中西悟堂から江馬修宛	1974(昭和49)年、1975(昭和50)年
28-⑩	『受難者』[初版]	1951(昭和26)年	66	江馬修関係新聞切り抜き	1976(昭和51)年1月
29-⑤	『受難者』の推薦文 羽仁五郎	1973(昭和48)年10月	67-⑤	短篇『油汗をながして三昼夜』	1977(昭和52)年1月
30-⑩	濃飛文学読本『飛騨高山』江馬修 岐阜県教育会	1932(昭和7)年	68-⑧	『人及び芸術家としての 国木田独歩』[初版]	1983(昭和58)年10月
31-⑩	『飛騨に於ける山岡鉄舟』高山市観光協会発行[初版]	1935(昭和10)年	69-⑧	『飛騨百姓騒動記』	1993(平成5)年10月
32-⑩	ひだびと『飛騨の鷹』第9年第7号 飛騨考古土俗学会[初版]	1941(昭和16)年	70-④	『暗い通りで』双子の恋	
33-⑩	『郷土演劇運動の理論と実践』[初版]	1944(昭和19)年2月	71-⑤	『ゲルニカの勝利を讃う』天児直美口述筆記	
34-④	『血の九月』在日本朝鮮民主青年同盟岐阜県飛騨支部	1947(昭和22)年8月	72-⑤	『天の一角から』天児直美口述筆記	
35-⑩	『本郷村善九郎』[初版]	1950(昭和25)年	73-⑥	『トントコ坊やの歌』草稿と完成原稿、天児直美口述筆記	
36-⑥	清水卯之助(啄木研究者)から江馬修宛	1951(昭和26)年7月	74-⑥	『文学における物語のすばらしい意義と影響力について』天児直美口述筆記	
37-④	『流人』	1953(昭和28)年6月	75-⑥	阿部和子(阿部次郎長女)、田村秋子、土岐善麿から 江馬修宛	
38-⑩	『流人』[初版]	1953(昭和28)年	76	立川市自宅 82才	